

# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立池田高等学校

学校番号	20
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。	
2 評価する領域・分野	◇研修	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒の主体的で対話的な深い学びの実現を目指したアクティブ・ラーニングへの授業改善と、いじめや不登校に早期に対応し生徒の心の問題にきめ細かく向き合える職員の指導力の向上を目標に教育活動を進めている。生徒・保護者対象のアンケートでは、大半が学習指導や生徒指導に先生が熱心に取り組んでおり、生徒の安全・安心に配慮した指導がなされているという点で高い評価を得ている。授業を通して一人一人の能力に応じた指導が行われているという認識には、保護者と生徒の間では少し隔たりがあり、生徒の実態を的確にとらえた、学校全体の適切な指導体制づくりと職員一人一人の能力の向上には改善の余地も見られる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇アクティブ・ラーニングやICT機器を活用する授業改善と指導力の向上。 ◇いじめや不登校、発達障害等に関する生徒理解及び対応能力の向上。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 企画委員会、生徒指導委員会、人権教育委員会、</li> <li>• 分掌会、教科会、学年会</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業公開を積極的に実施し、教員による相互評価、管理職による授業参観と指導・助言、自己啓発面談を進める。 (2) いじめの早期発見と不登校への早期対応をスクールカウンセラーの活用を積極的にして指導の充実に努める。	(1) 生徒及び保護者アンケート、教員の相互評価、生徒対象の授業アンケート（満足度調査） (2) 生徒対象生活アンケート（迷惑調査）、i-check（生徒自己理解調査）、保護者対象メールアンケート	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 年2回の授業公開週間を設定し、外部評価を受けるとともに職員相互または管理職による授業参観を行い授業評価を実施し、アクティブ・ラーニングやICT機器を活用する授業改善を進める。</li> <li>• 先進校の視察を実施し、授業改善について研修する。</li> <li>• 生徒に関する教員間の情報共有を図るとともに、早期に適切に対応する体制づくりと職員の指導力を向上させる。</li> </ul>	① 教科の枠を越えた授業参観及び相互評価を通して、授業力が向上できたか。  ② いじめ・不登校等に対する理解を深め、適切に対応する方法を学び実践できたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D  <input checked="" type="checkbox"/> A B C D
11 成果・課題	(成果) ○学習室や情報機器(プロジェクター・タブレット)を利用したり、ホワイトボード等を利用しアクティブ・ラーニングについて授業研究を進めることができた。 ○一人一人の職員がいじめや不登校についての感覚を敏感にして教育活動を進め、各種調査からも予兆を早期に発見し、スクールカウンセラーを積極的に活用し関係機関とも連携を密にして対応することができた。 (課題) ▲アクティブ・ラーニングの取組やICT機器の利用は、教科間・教師間のばらつきがあるので、来年度は全職員が取り組めるような授業改善に取り組む必要がある。	
	総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	

## 12 来年度に向けての改善方策案

- 先進校の例に倣って、ICT機器を積極的に活用し、総合的な学習の時間を充実した時間にするための計画を立てて実行したい。
- いじめの未然防止と早期発見・迅速な対応、不登校への早期対応ときめ細かい支援体制について職員間で共通理解を図り、情報を共有し問題解決に速やかに向かう職員体制を確立したい。

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年2月6日

### 【意見・要望・評価等】

- アクティブラーニングの成果が見えており、さらに教職員の熱心な指導が効果を上げている。
- 常に生徒の立場に立ってより良い、より高い教育を目指して、先生方自身が学ぼうとする向上心をもっていらっしゃる事がよくわかる。それは授業や学習面だけでなく、生徒の悩みや心のケアにも当てはまる。また、情報社会の現代、ICT機器の利用や情報機器の活用など、新しい指導方法にも積極的に取り組んでいらっしゃる事がよくわかる。
- 先生の質問に対しての生徒の返答や、アクティブラーニングにもう少し研修したほうが良い。